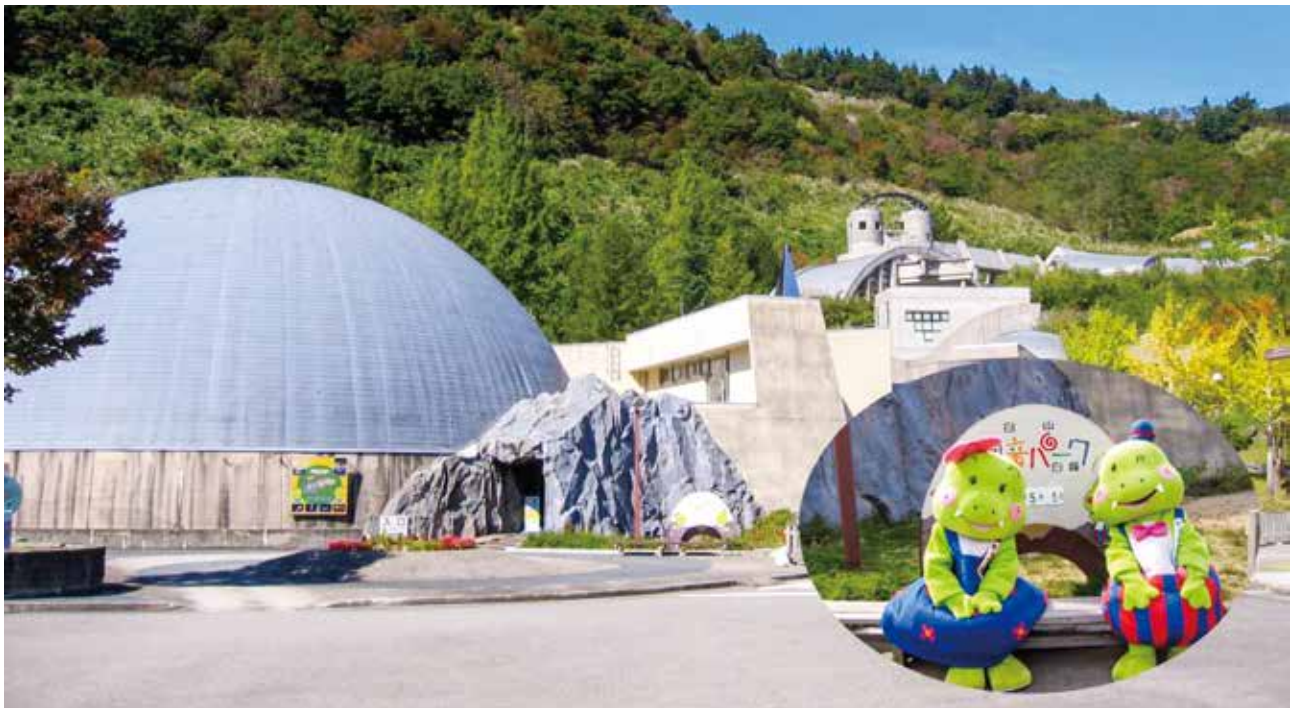


白山市文化施設館報

白山ミュージアム



県内唯一の恐竜博物館 白山恐竜パーク白峰

これまで白山市内七施設を紹介してきた白山市文化施設館報に、白山恐竜パーク白峰が仲間入りしました。

白山恐竜パーク白峰は、中生代白亜紀に堆積した手取層群桑島層が露出する「桑島化石壁」で発見された植物化石や恐竜の歯、足跡化石などの貴重な資源を村づくりに活用するため、平成四年に旧白峰村が整備した「手取湖太古の丘恐竜館」を前身としています。

手取湖太古の丘恐竜館の展示館（現恐竜館）は、恐竜の卵を連想させるようなドーム型の建物で、その館内には、骨格模型としては当時国内最大級のディプロドクス（竜脚類）を展示しました。また、屋外には、その当時では珍しかった化石発掘体験のできる場所（化石発見広場）を設けました。その後、平成八年三月から一年をかけて増築などを行い、映像で恐竜の世界を体験する「映像館（現学習館）」、休憩室の機能を備えた「ふれあい館」、学習のできる「化石工房（現化石調査センター）」の三棟を整備、平成九年四月に、「白山恐竜パーク白峰」としてリニューアルオープンしました。

今年五月に、白山手取川ジオパークが、ユネスコ世界ジオパークの正式登録を控えています。が、拠点施設のひとつで、桑島化石壁のガイダンス施設でもある白山恐竜パーク白峰は、今後益々、その重要性が高まっていくものと思われます。

contents

■ 県内唯一の恐竜博物館	
白山恐竜パーク白峰	1
■ 「化石の成り立ち」を体感する	2
■ Stories of the Hakusan Tedorigawa Geopark	
～何気ない風景の中の話～	3
■ 枝外間による枝権兵衛頭彰の取り組み	4

■ 呉竹文庫開館百周年を迎えて	6
■ 俳諧の長者 河合見風	8
■ 一向一揆の基本組織であった「組(与)」	9
■ 令和5年度 国民文化祭行事予定	10
■ 令和5年度 前期行事予定	11
■ 令和5年度 行事予定	12

「化石の成り立ち」を体感する

白山市桑島にある国指定天然記念物「手取川流域の珪化木産地（通称桑島化石壁）」は、白山手取川ジオパークの最も重要な構成遺産です。その「桑島化石壁」のガイダンス施設としての役割を担うのが、白山恐竜パーク白峰です。白山恐竜パーク白峰は、今年度でオープンしてから三十年が経ち、展示内容に古さが目立ってきたこと、オープン当時と今現在とでは、施設の果たす役割が変わってきたことなどもあり、施設内の展示を一部更新・改修することになりました。

特に、恐竜館（受付のある建物）のスロープにあった大型の備え付け展示ケース六箇所は、それまでであった展示物を移設後、工事を伴う大幅な改修を行いました。これは、石川ルーツ交流館や白山市立博物館が実

施したりリニューアル同様、白山手取川ジオパークの拠点施設に、ジオパーク関連の展示などを整備していく、ジオパーク推進事業の一環です。白山恐竜パーク白峰は、白山手取川ジオパークの「山と雪のエリア（白山手取川ジオパークは、海と扇状地のエリア、川と峡谷のエリア、山と雪のエリアの三つのエリアがある）」における中心的施設として位置付けられていることから、ジオパーク拠点整備事業の対象施設となりました。

今回、新たに恐竜館のスロープ部分にお目見えした展示は、「化石の成り立ち」を自ら体感・学習できるというもの。展示ケースそのものを地層に見立てることによって、観覧者自らがその中に入り、化石になっていく様子を体感することができます。



恐竜館のスロープに新たにお目見えした展示

展示ケースだった場所は六箇所です、それぞれ、①恐竜時代（約一億三千万年前）の桑島の風景、②動物の遺骸や植物などが砂や泥に埋没する様子、③砂や泥が岩石（地層）となり、そこに含まれる遺骸も、徐々に化石に変化していく様子、④地層が地殻変動や造山運動によって隆起



顔出し用の穴が前面のパネルに設けられる

していく様子、⑤・⑥化石（観覧者）が桑島化石壁で発見される様子、という場面を体感することができます。②・④・⑤のケースには、それぞれ顔を出す穴が設けられているので、写真撮影用スポットとしても利用可能です。

（白峰化石調査センター 大塚）

白山市立博物館 企画展

Stories of the Hakusan Tedorigawa Geopark — 何気ない風景の中の物語 —

会期 令和四年十月七日～十一月十三日

令和二年十月、白山手取川ジオパークが日本ジオパーク委員会からユネスコ世界ジオパークの十地域目の国内推薦が決定されたことをうけて、昨年に引き続き企画展を開催しました。

今回の企画展は、白山手取川ジオパークが世界ジオパークに認定されるよう気運を盛り上げるため、テーマである「山—川—海そして雪—いのちを育む水の旅」の魅力を十分にPRすることがテーマです。白山市の南北四十kmに及ぶ手取川の上流から下流まで、三つのエリアに分けて展示しました。

2. 水が育つ川と峡谷のエリア
いくつもの川が合流し、流れが大きく成るエリアです。

3. 水が活かされる海と扇状地のエリア
水から受ける恩恵と脅威を感じるエリアです。

手取川の上流から下流域まで「桑島化石壁」（中世代白亜紀前期の恐竜化石、植物化石）「手取峡谷」「獅子吼高原」等の特徴的な風景のなかに見て取れる流域の豊かな自然をパネルを通して紹介しました。

折しも、コロナ禍により延期を余儀なくされてきたユネスコ派遣審査員による現地審査が、企画展展示期間中に行われることとなりました。展示内容は、審査員が実際に見てき

たところを、全国から白山市を訪れる方々に、白山手取川ジオパークの魅力を知ってもらい、一度、現地を訪れてもらうための道標を、案内役になればと思う展示内容にしました。

また、開催中に第十二回日本ジオパーク全国大会 白山手取川大会 大会テーマが地球と旅する「白山手取川」の地から地球と人の未来を考え

る「が白山市松任文化会館ビノを主会場として開催され、全国のジオパーク関係者に白山市の特徴的な自然を大いにPR出来ることができました。

今回の企画展では、見学にこられた小学生は、熱心に鑑賞して白山手取川ジオパークに広がる自然に大いに興味を持った様子でした。

（白山市立博物館 尾崎）



展示のようす（特別展示室内）



展示のようす（特別展示室内）

枝外間による枝権兵衛顕彰の取り組み

枝権兵衛（一八〇九～一八八〇）

は七ヶ用水の合口工事につながる富樫用水隧道建設に尽力した人物として知られています。枝権兵衛顕彰の取り組みを推し進めたのは枝権兵衛の孫で林村長も務めた枝外間でした。

枝権兵衛の顕彰は、その生存中から始められたとされています。明治二年（一八六九）には枝権兵衛と小山良左衛門を祀る生祠が建てられ、その祠事は森田九兵衛が担当したといわれています。この生祠の御神体とされる掛軸の存在が知られてはいるものの、生祠建設は疑わしいとする見解もあり、定かではありません。また枝権兵衛は明治十一年に長年の公職と富樫用水への尽力により、石川県から表彰されました。明治二十五年には小山良左衛門・枝権兵衛記念碑の建碑及び記念祭が計画さ

れましたが、実現には至りませんでした。このように明治初期から枝権兵衛等を顕彰する取り組みはあったものの、取り組みが活発化するのは大正時代以降のことになります。

枝権兵衛の顕彰といえば紀功碑・記念像の建設が有名ですが紙芝居の作成等、多岐にわたっています。これらの多くは枝外間が主催した事業ではありませんが主體的に関わり、また個人としても実績の編纂や出版物への掲載依頼等を行っています。

まず大正九年（一九二〇）四月、枝外間は自らの取り組みの根底となる「祖父権兵衛の事績聞き書」（以下「聞き書」という。）及び「枝権兵衛事績之補遺」を記し、権兵衛の事績をまとめました。また大正十三年九月には林村が旧藩時代における耕地拡張に関する回答として「枝権

兵衛ノ履歴」を作成しています。

次に紀功碑についてですが、現在、白山市白山町の古宮公園内にある「小山良左衛門枝権兵衛二君紀功碑」がこれにあたります。明治期には実現しなかった紀功碑が建てられたのは大正十五年のことになります。紀功碑碑文作成等の経過は枝外間と岸秀実、赤井直好のやり取りによって知ることができます。「聞き書」によれば岸秀実と枝権兵衛と同じく、富樫用水井肝煎を務めた人物であり、「聞き書」作成時にも協力しています。枝外間にとって岸は祖父権兵衛をよく知る人物であり、信頼していたのでしょう。大正十四年六月、岸は紀功碑の建設地に三國屋（森田）九兵衛宅付近を提案し、碑文撰者に第四高等学校教授の赤井直好を推薦しています。碑文を依頼された赤井は紀功碑の名称を枝外間に相談しますが、同年八月、赤井は「小山良左衛門枝権兵衛二君紀功碑」とする案

を小山氏の家系等調査が必要である

として難色を示し、「改修富樫渠碑」

とすることを提案しています。また

岸は遺族から小山良左衛門の生年月

等の情報提供を受け、赤井に報告し

ています。最終的に碑の名称は「小

山良左衛門枝権兵衛二君紀功碑」に

決定し、碑文は同年十二月頃には完

成したようです。この紀功碑は七ヶ

用水の管理者 城森省三、富樫用水

の管理者 谷市三郎等が発起人とな

り、題額は床次竹二郎が揮毫、碑文

は赤井直好が作成し、碑文の書は岡

本勇、石材の調達・加工は石富捨次

郎、積工は三浦仁三郎が担当して

七ヶ用水給水口近くの舟岡山山際に

建設され、除幕式は大正十五年四月

十八日に執り行われました。

出版物への掲載依頼としては『石

川郡誌』、『石川県史』等があります。

大正十五年五月、枝外間は『石川郡

誌』に掲載するため、富樫用水功労

者記念碑（紀功碑）の写真撮影を富

奥村長に依頼しています。昭和二年（一九二七）、『石川郡誌』が出版され、写真は同書内「鶴来町」の項目で紹介されました。また枝権兵衛の記述

は「林村」の欄に記されました。大正十五年五月、岸は枝外間に対し、

「石川県史」に枝権兵衛を記載してもらうため、県史編集者の日置謙に依頼するよう進言しています。さらに岸は日置と面談し、枝権兵衛の記載について承諾を得たことを枝外間に報告しています。枝権兵衛の事績は『石川県史』第参編に掲載されました。昭和十六年八月、枝外間は鶴来町で出版する歴史・産業・景観等を記述した文献等に紀功碑の記載を依頼し、松尾佐久郎から枝権兵衛等の記述について編纂中の「町誌」に編入したい旨の返信がありました。その他、昭和六年七月には鶴来町長松尾佐久郎及び河内村長 吉谷外美雄ほかに町村案内記等作成の際には紀功碑の由来を書き加えてほしい旨、

依頼しています。また昭和八年六月には鶴来町の武閑雲が事績功労者等の調査・編纂を行っていることを知り、調査を依頼しました。

昭和三年四月、故枝権兵衛への贈位が申請され、同年六月、枝外間は箸本太吉（衆議院議員）に贈位達成のための配慮を依頼する手紙を送っています。同年十一月、故枝権兵衛に従五位が贈られました。これを受けて同年十二月には林小学校において贈位奉告祭が行われたのでした。

林村音頭の歌詞について枝外間は間接的に関わり、昭和十五年四月、林村音頭の歌詞に枝権兵衛と義民太郎左衛門の功績を読み込むことを林村小学校職員へ依頼しています。また林村音頭に掲載する枝権兵衛の事績の内容を赤井直好に相談し、同年七月から八月にかけ、赤井から歌詞の修正案をもらいました。この年八月十五日に開催された盆踊りで配布された林村音頭の印刷紙に枝権兵衛

等が記載されていなかったことを枝外間は抗議しています。昭和十六年九月には枝外間は林村国民学校長佐野太三郎に林村民謡の歌詞に枝権兵衛を簡明に読み込むことを照会しています。昭和十七年七月にも修正を依頼しており、林村音頭が完成した時期は、それ以降と考えられます。

枝権兵衛の紙芝居「郷土の恩人水神 枝権兵衛」は藤多三夫原作・原画により二十五枚で構成され、枝権兵衛の功績をわかりやすく伝えています。その制作は昭和十九年九月、藤多三夫が紙芝居の脚本を応募したい旨、枝外間に報告し、同月中に原稿訂正分を送っていますが、同年十一月、藤多三夫は病氣休職しており、完成時期はわかっていません。昭和八年六月、枝外間は以前に依頼した手取川七ヶ用水功労者の霊殿建設の進捗状況を谷市三郎へ問い合わせしていますが、その後、霊殿建設がどうなったかは不明です。昭和

二十年一月、元東京大学教授で生祠の研究者でもある加藤玄智は紀功碑とは記念碑的なものだとして枝権兵衛等の生祠復興運動の立ち上げを言いますが、枝外間は石川郡有志等が枝・小山両君の霊殿建設を提唱しているものの時局柄、一時中止の状態であることを加藤に報告しています。

このように枝外間は多岐にわたる各方面へ祖父枝権兵衛の事績について周知を図っています。今では「七ヶ用水の父」と称され、その功績が認められている枝権兵衛も枝外間による顕彰の取り組みによって認知されたとはいえるのではないのでしょうか。

白山市立博物館では令和五年四月二十一日から六月十一日まで企画展「神になった権兵衛―枝権兵衛の顕彰活動と七ヶ用水―」を開催します。枝外間が推進した枝権兵衛顕彰の取り組みや枝権兵衛が携わった富樫用水の事業等を紹介します。

（白山市立博物館 村上）

呉竹文庫開館百周年を迎えて

呉竹文庫は、熊田源太郎が購入した書籍をもとに開設した私設図書館です。大正十一年（一九二二）に財団法人呉竹文庫としての開館式から今年、開館百周年を迎える記念の年になりました。

「熊田源太郎とは」

設立者熊田源太郎は明治十九年（一八八六）八月九日に生まれ、明治三十六年（一九〇三）十二月、養父源太郎の死去により十七歳で家督を相続し、源太郎を襲名します。家業の回漕業を経営しつつ金融・鉱業・運輸など様々な事業を手がけました。地主として納税額が県下最大の時期もありました。

昭和九年（一九三四）七月の手取川大洪水で大きな被害を受けた湊村の立て直しを村民に懇願され、病身

をおして村長職に就任します。早期復興に力を注いだ激務に体調を崩し入院、昭和十年（一九三五）一月十二日、治療のかいなく死去。享年四十八歳でした。

熊田源太郎は常々「私は紙魚（紙を喰う虫）になりたい」と語っていたと言われています。事業が忙しく、読み切れない書籍を多くの人に手に取ってもらいたいと「呉竹文庫」を設立しました。

大正十年（一九二二）に印刷された「呉竹文庫図書目録」によると設立当時の図書は五千余冊。

運営は、四月から九月は午前八時から午後五時まで、十月から三月は、午前八時から午後四時まで開館。年末・年始に三日ずつ、曝書のため八月・九月の内一週間休館した以外は閲覧開放していたようです。



大正15年第20回全国図書館大会記念写真



大正11年開館当時の呉竹文庫の様子

「熊田源太郎と呉竹文庫」展

企画展『熊田源太郎と呉竹文庫』展では、熊田源太郎の写真や自筆の「呉竹文庫寄付行為」、自歌集『苦屋集』、「夏季大学校」の資料や画家津田清楓の絵葉書、暁烏敏の絵葉書、学費を援助していた学生からの手紙など熊田源太郎がどのような人物かを知っていただく機会となるよう展示を行いました。

図書館の大切さを理解していた熊田源太郎は大正十五年（一九二六）に開催された第二十回全国図書館大会に参加しています。参加者全員で撮った記念写真に熊田源太郎（左端前から三番目）も写っています。

自筆の和歌集『苦屋集』は明治三十五年（一九〇二）～四十年（一九〇七）の間に詠んだ六百九十二首が直筆で書かれています。青年時代から与謝野鉄幹・尾上柴船などの新しい傾向の歌を好み、「呉竹舎」

の号で、雑誌『新聲』、『文庫』などに和歌を投稿していました。

津田清楓からの絵手紙に

「文展の噂は新聞でご承知の事と存じます。貴下は京都でご覧に成りますか。去年の花畑で会った事を思い出します。画会の画は来月あたり御送りいたします。」と書かれています。津田清楓の描いた絵が所蔵品にあるので、絵葉書に書かれた絵だともわれます。

開館翌年の大正十二年（一九二三）の夏に開催した「夏季大学校」は八月九日から十二日に開催しました。参加申し込み人数は二百四十人。講師の目玉である柳光悦には、熊田源太郎自ら東京に向いて講師を依頼しています。夏季大学校の開催要項、会員証をはじめ柳光悦からの承諾の手紙も展示しました。民芸運動の提唱、「白樺」で知られる柳でしたが、大正八年（一九一九）から東洋大学教授として宗教学を教えていました。

講演の題名は「神への理解」でした。能美郡はじめ県内からも応募があり、参加人数も多く成功したと思われる夏季大学校ですが、熊田源太郎の思いとは違ったのか、二回目は開催されませんでした。



展示の様子

呉竹文庫開館百周年記念

呉竹文庫開館百周年記念として十月十五日（土）・十六日（日）に美川華道連盟の（古流千昇派・未生流・池坊・小笠原・二十七名）皆様のご協力をいただき呉竹文庫・石川ルーツ交流館アトリウムを会場に合同花展を開催いたしました。

二日間で、五百四人ものご来館者

に各部屋の生け花を鑑賞し、喜んでいただきました。

また呉竹文庫では、開館百周年記念茶会を十一月二十六日（土）・二十七日（日）の二日間で四席開催



花展 呉竹文庫 玄関前



花展 石川ルーツ交流館

いたしました。

これまで、三十年以上に渡ってお茶会に携わっていただいた竹内宗君社中の皆様のご協力いただき一席五名ほどのお席でゆつたりとしたお茶会になりました。ご参加された方にも記念の茶会に参加できて嬉しい、素敵なお茶会でしたとお言葉をいただきました。

最後に美川華道連盟・竹内宗君社中の皆様にお礼を申し上げます。

（石川ルーツ交流館 早松）



竹内宗君社中によるお点前

白山市立千代女の里俳句館 企画展

俳諧の長者 河合見風

会期 令和四年八月二十七日～十月十日

河合見風（一七一〇～一七八三）

は、江戸時代に加賀国津幡を拠点に活躍した俳人です。当時の加賀俳壇における実力者の一人で、千代女とも親交のあった人物ですが、意外にも、現在その名はあまり知られていません。本展では、見風の人物像や千代女に与えた影響などについて、広く発信することを目的として開催しました。

見風は、津幡で代々村役人を務める名家の九代目で、組合頭を務めました。家業の旅館業のほか、米穀商や塩屋も兼ねたとみられ、その豊かな経済基盤を背景に、俳諧や和歌に傾倒し、「俳諧の長者」と呼ばれました。見風自身は諸国行脚をしませんでしたが、彼を慕って全国から俳人や歌人が訪れました。

さらに、加賀藩の重臣前田土佐守

直躬や、歌道の名門である冷泉家の十五代当主為村との身分を超えた交流もありました。前田直躬との交流は、寛延元年（一七四八）以前から始まっていたと考えられており、直躬が津幡の見風の草庵を訪れ、俳諧や和歌を共に楽しむこともあったようです。また、冷泉為村との交流は、所在が分からなくなっていた冷泉家六代為広の墓所を見風が発見し、その再建に尽力したことを機に深まりました。

見風が、芭蕉ゆかりの「霞形文台」を譲り受けたことを記念して、明和二年（一七六五）に刊行した俳諧撰集『霞かた』には、前田直躬をはじめ、諸国の俳人四三〇名による四七二句が集録されています。見風

は、この『霞かた』の序文を千代女（素園）に依頼しており、俳人としての千代女を高く評価していたことがわかります。千代女にとっても、見風は尊敬する俳友の一人であり、見風宛ての手紙には、自作の句を添え、批評を求めています。

見風と千代女の親交は、俳諧作品の合作からもわかります。宝暦十三年（一七六三）、見風と千代女、そして金沢の俳人珈涼の三名が、前田直躬の五十歳のお祝いとして、発句を詠んでしたためた懐紙を贈っています。また、

本展で展示した、見風、千代女、闌更らによる句軸は、前田土佐守家に仕えた武人画家矢田四如軒の画に句を添えたもので、



河合見風画像 八椿舎康工編『俳諧百一集』より

この軸の制作には直躬と親交があった見風が主体的な役割を果たしたと考えられます。当時、千代女はすでに、加賀の俳壇で一定の評価を得ていたと思われますが、俳諧による交流は身分を超えたものとなっており、その背景には、見風と前田直躬の深く強い繋がりがあったと考えられます。

【参考文献】藏角利幸『加賀の俳人河合見風』（桂書房、一九九八）

（千代女の里俳句館 横西）

一向一揆の基本組織であった『組(与)』

「与者一揆同事也」とは武家奏者公卿広橋守光の日記に述べられた文言です。「与(くみ)」とは「組」を指します。加賀一向一揆の基本的な組織で、約百年に及ぶ地縁血縁です。

自治的な性格を色濃く持っていたといわれ恒常的な組織で、「藩」の萌芽的な機能を持つとも指摘されます(井上鋭夫『一向一揆の研究』。白山市地域には山内組、河原組、松任組、松本組(玄任組、西組、西縁組など複数の名で呼ばれます)の四組がありました。この四組を紹介する企画展が令和四年のテーマでした。

山内組は鳥越城主鈴木出羽守が知られています。河原組は大窪源左衛門尉家長が安吉城主、長享二年(一四八八)高尾城攻めでは河原衆八千余人を率います。室町幕府奉公衆松任氏は松任組を率います。のち

鎗木氏が養子に入ったともいいます。松本組は現在の松本町・鹿島町辺が中心となっていました。

旗本玄任と松本組衆について「加賀シユシクツサレテ石川ノニシクミゲンニウチ死ニ(『本福寺跡書』)」したエピソードを少し紹介しましょう。永正三年(一五〇六)加賀一向一揆を中心とした一揆勢の大軍が越前九頭竜川以北を占領します。迎え撃った朝倉宗滴が敵前渡河し一揆勢を打ち破り、一揆勢は大敗します。翌四年夏、越前勢とともに旗本玄任以下松本組三百余人が再び討ち入り

一步も退かず全滅します。『朝倉始末記』によれば、出陣にあたり「敵ノ方へ懸ル足ハ極楽浄土へ参ト思ヘ。引退ク足ハ無間地獄ノ底ニ沈ト思テ、一足モ退クベカラズ」と「和田坊主」衆は一揆勢を教化します。

合戦が終わって玄任の妻の悲しむ姿を目にした坊主が慰めますが、彼女が「夫は極楽往生間違いないが、無事帰った坊様が地獄に落ちるのを悲しんでいるのです」と。『始末記』の著者は一揆を批判したつもりだろうが、そこには自律する一揆衆の姿を見ることが出来ます。

戦場となった帝釈堂口が要衝であったことから激しい戦いが幾度も繰り返されました。合戦が終わると

怨霊が度々村人を困らせ、平泉寺から僧を招き法華経を読経回向して碑を設け迷える霊を鎮めたといっています。天文七年(一五三八)に建てた供養碑と江戸期の三体仏堂が今も帝釈堂口の村人に護られています。越前には一向一揆を鎮める首塚が数か所築かれています。

歴史ファンには戦国の世のロマンに思いをはせ、訪れるのはいかがでしょうか。

(鳥越一向一揆歴史館運営委員 西出)



三体仏像



供養碑

白山市立博物館 特別展

「白山への道」

「白山下山仏と禪定道」

令和5年10月7日(土)

～11月19日(日)

明治初期、白山でも廃仏毀釈が起こり、白山本宮や禪定道等にあった石仏や仏教的施設等が破壊されました。このとき破壊されずに白山から下山した仏像群は「白山下山仏」と呼ばれています。白山下山仏が下山するまでの経緯や白山における神仏分離の歴史、白山信仰の文化財等を紹介します。

千代女の里俳句館 企画展

「西のぼる展」(仮称)

令和5年10月7日(土)

～11月26日(日)

白山市在住で、市の芸術文化アドバイザーも務める画家の西のぼる氏は、数々の歴史小説の装画・装幀画・

挿絵を手掛けています。画家の第一人者として本市を代表する芸術家の一人である西のぼる氏の感性と美意識のもとで、白山市で生まれ育った江戸時代を代表する著名な女流俳人である加賀の千代女の俳句にスポットを当て、その魅力を全国に発信することを目的とします。

松任中川一政記念美術館 特別展

生涯百三十年中川一政展

「百花繚乱 芸術の魅力とその生き方」

令和5年10月7日(土)

～11月26日(日)

白山市ゆかりの芸術家・中川一政の生涯百三十年の節目を記念する展覧会を開催し、作品及び関連資料からその創作活動と人生を辿ります。中川一政の創作活動は、絵画や書、陶芸など広範多岐にわたり、まさに「百花繚乱」。その多彩な芸術の魅力を紹介すると共に、九十七歳の生涯を現役で全うした生き様から、人生百

年時代を生きるヒントを見つけます。

石川ルーツ交流館 企画展

「小説と私 ―作家三田薫子―」

令和5年10月14日(土)

～11月12日(日)

白山市(旧美川町)出身で、美川を舞台にした小説「女の手取川」、「幕末尊王攘夷の志士小川幸三の妻直子」を描いてきた作家三田薫子さんの作品を紹介するとともに舞台となった白山市内を紹介します。

呉竹文庫 企画展

「島田清次郎とその時代」

令和5年10月14日(土)

～12月17日(日)

白山市(旧美川町)出身の作家島田清次郎の作品が掲載された雑誌や書籍、当時発行された雑誌など大正時代の雰囲気を感じていただきます。

鳥越一向一揆歴史館 企画展

「一紙半銭の戦い(愛山護法の戦い)」

令和5年10月14日(土)

～11月26日(日)

天亀元年から十一年に亘る大坂本願寺と織田信長勢による全面戦争に関わる加賀一向一揆の歴史を紹介します。

白山恐竜パーク白峰 企画展

「三次元データを活用した化石の研究及び普及活動」

「白山市の化石を例に」(仮称)

令和5年10月14日(土)

～11月19日(日)

3Dプリンタを利用して作成された化石のレプリカやマイクロCTスキャンで得られたデータの映像を公開します。CTスキャンや3Dプリンタ技術が、どのように化石の研究や普及活動に関わっているのかを紹介します。

千代女の里俳句館
館蔵名品展

「千代尼句集」の名句たち

令和5年3月25日(土)

～5月7日(日)

『千代尼句集』と、その後編『はいかい松の声』は、千代女の生前に刊行された個人句集です。生前に個人句集が二度も刊行されるのは、当時としては非常に珍しいことでした。

『千代尼句集』のあとがきによれば、編者の既白法師は、千代女の句が俳諧を楽しむ人たちの手本となることを願って編纂したと書かれています。

本展では、この二つの句集に掲載された句の一部を、当館の収蔵する千代女直筆作品を通して紹介します。



千代尼句集

呉竹文庫 春季展

「辞書を知る」

令和5年3月14日(火)

～5月21日(日)

所蔵品の中から総革製の豪華な辞書やポケット辞書など約三十点展示します。

石川ルーツ交流館ミニ展示
「フोटおかえり祭り」

令和5年4月29日(土)

～5月21日(日)

昨年三年ぶりに開催された「おかえり祭り」のお神輿・台車などの写真を展示します。



白山市立博物館 企画展

「神になった権兵衛」

「枝権兵衛の顕彰活動と七ヶ用水」

令和5年4月21日(金)

～6月11日(日)

七ヶ用水合口工事の契機となった安久湊ヶ淵からの取水計画を実行した枝権兵衛は「七ヶ用水の父」と呼ばれています。枝権兵衛顕彰の取り組みは顕彰碑の建設や事績の編纂、紙芝居の作成など多岐にわたっています。枝権兵衛の孫 枝外間はこれらの多くの事業に関わりながら枝権兵衛の功績を周知していきました。枝外間が取り組んだ枝権兵衛の顕彰や枝権兵衛が携わった富樫用水の事業等を紹介します。



白山恐竜パーク白峰

「化石発掘体験」

白山恐竜パーク白峰では化石発見広場で実際に化石探しを体験していただけます。体験に必要なハンマー・ゴーグル・軍手は貸し出していますので、お気軽にご参加ください。なお、化石発見広場のみのご利用も可能ですが、お得な入館とのセット料金もございます。

入館料／

大人五二〇円、小中高生二〇〇円

化石発見広場のみの利用料／

大人五五〇円、小中高生三〇〇円

セット料金(入館+化石発見広場)／

大人八五〇円、小中高生四〇〇円



令和5年度 展示・行事予定

事業計画	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
白山市立 博物館 275-8922													
	企画展 「神になった校権兵衛 一校権兵衛の顕彰活動と 七ヶ用水」 4/21～6/11		企画展 「描かれた白山」 7/7～8/27			いしかわ 百万石文化祭2023 特別展 「白山への道 一白山下山仙と 禪定道」 10/7～11/19			企画展 「かわってきた道具と わたしたちのくらし」 1/19～3/3				
	スポット展示 「桜園一金栄健介 ポタニカルアート」 3/24～4/16												
	◆講演会等		6/4講演会「校権兵衛と運河計画」				11/3講演会「特別展講演会・シンポジウム」				3/3刀の手入れ教室		
千代女の里 俳句館 276-0819													
	立夏展示替		立秋展示替			立冬展示替			新年展示替		立春展示替		
	館蔵名品展 3/25～5/7		企画展 「俳句と写真展」 6/10～8/6			いしかわ百万石文化祭2023 企画展 「西のぼる展」(仮称) 10/7～11/26 俳句協会 会員展 10/28～11/12			千代女・一茶 交流パネル展 12/9～12/24		企画展「俳句の愉しみ展」 1/13～3/10		
	春期俳句ポスト選句 4/19音楽祭コンサート		夏期俳句ポスト選句			秋期俳句ポスト選句			冬期俳句ポスト選句		俳句ポストパネル展		
松任中川一政 記念美術館 275-7532													
	2023前期テーマ展 え モチーフ 「中川一政 絵画と題材」Ⅰ 2/28～5/28		2023前期テーマ展 え モチーフ 「中川一政 絵画と題材」Ⅱ 5/30～10/1			いしかわ百万石文化祭2023 白山ミュージアムサーキット 生誕130年 中川一政展 百花繚乱 芸術の魅力とその生き方 10/7～11/26 臨時休館			2023後期テーマ展 え ことば 「中川一政 絵画と随筆」 12/1～2/25		2024 春季テーマ展 (内容未定) 2/27～		
	4/19音楽祭コンサート		7/20～7/30 第29回花を描こう絵画展(市民工房うるわし)			10/22記念講演会 10/7オープニングコンサート 10/15・16 0歳からの家族鑑賞会「ミュージアムスタート」					2月中旬 中川一政パースディコンサート		
	美術館講座「中川一政文集を読む」 ①6/17		7/23夏休みキッズプログラム「一政に挑戦! 油絵体験」			11/23記念句会			④12/16		⑤2/17		
石川ルーツ 交流館 278-7111													
	4/16篠笛コンサート		「絵手紙」展 6/17～9/24			いしかわ 百万石文化祭2023 企画展 「小説と私」 10/14～11/12			11/19 ヨシ笛コンサート				
呉竹文庫 278-6252													
			「絵手紙」展 6/17～9/24			いしかわ百万石文化祭2023 「島田清次郎とその時代」展 10/14～12/17					「大正時代の観光絵葉書」展 1/13～4/7		
松任 ふるさと館 276-5614													
			7/2七夕茶会			9/29月見コンサート 9/29・30月見夜灯 9/30月見茶会					2/3雪見茶会 2/3～3/3雛人形展示		
鳥越一向一揆 歴史館 254-8020													
			企画展示 「石川中央都市圏 考古資料展」 7/21～8/20			いしかわ百万石文化祭2023 企画展 「一紙半銭の戦い (愛山護法の戦い)」 10/14～11/26					◆歴史セミナー		
白山恐竜 パーク白峰 259-2724													
	※全季閉鎖中	当館では、常時予約なしで化石発掘体験が楽しめます					いしかわ百万石文化祭2023 企画展 「3次元データを活用した 化石の研究及び 普及活動」(仮称) 10/14～11/19			※11月下旬～4月下旬 冬期間閉鎖			
5月下旬 若葉まつり恐竜パーク見学ツアー													11月上旬温泉まつり恐竜パーク見学ツアー

※各館のイベント等は白山ミュージアムポータルサイト <http://www.hakusan-museum.jp/> で紹介しています。日程等が変更になる場合があります。詳細については各館までお問い合わせください。

白山ミュージアム 検索